

星空のように町民が集い輝く場—— スバルで開館20周年記念コンサート

文化交流センタースバルの「開館20周年記念コンサート」が6月23日、同館で開かれました。小田地域にゆかりのある橋本岳人山さん夫妻や三田杏華さん、折本慶太さんがステージに立ち、尺八や箏、三味線などの演奏で500人の来場者を魅了しました。

三田さんの曲「がんばれ高齢者」では、会場が一体になって体操をして盛り上がり、岳人山さん



1_出演者と観客全員で「ふるさと」を歌う 2_公演後、笑顔で記念撮影に応える三田杏華さん

からは「体調を崩していたとき、小田の野菜で元気に来た」という話もありました。最後はみんな「ふるさと」を合唱。会場全体がやさしい雰囲気になりました。一緒に20周年を祝いました。

「スバル」の名には、星空のように人々が集い、輝く場所になるように、宇宙のように町民の輪が広がるように、との願いが込められています。

中学生の「愛媛ジョブチャレンジ」 地元で働く魅力を知る4日間——

生徒の職業観などを養うことを目的とした「愛媛ジョブチャレンジU-15事業」が7月1～2日、4～5日の計4日間、大洲市喜多郡内で行われました。内子町内の中学2年生約130人が参加し、協力してくれた各事業所などに分かれて職場体験をしました。

昭和刷子で歯ブラシづくりを体験した小東豪さんと兵頭一海さん（五十崎中）は「地元の大きな

会社で働いてみたかった。ものづくりの大切さがあった」。図書情報館で体験した松岡由樹さん（内子中）は「本の並べ方だけでも、いろんな工夫をしていると教えてもらった。将来は司書になりたい」と話しました。

同事業は昨年まで「職場体験学習」として行われていました。期間を長くすることで、より効果が上がると期待されています。



1_五十崎幼稚園で保育士を体験。一緒に笹飾りを作った
2_図書情報館。本の貸し出し・返却の手続きなどを体験
3_歯ブラシの検品の仕方を教えてもらう生徒

私が取材しました！

山本 果凜さん（五十崎中2年）

広報紙づくりや文書係の仕事体験。
一丸レフカメラや編集ソフトを使い、
2ページ目の「ぼくの夢わたしの夢」と、この記事を作成しました。

読み聞かせで親子の絆を深めてほしい 生命保険協会が69冊の絵本を寄贈

生命保険協会愛媛県協会（河野次郎会長）から内子・五十崎の両児童館、内子子育て支援センターに絵本が贈られ、7月26日に五十崎児童館で寄贈式が行われました。

同協会では社会貢献活動の一環として、読み聞かせによる親子の絆づく

りを推進しており、これまで47団体に776冊の絵本を贈っているそうです。河野会長が「お父さんやお母さん、先生と一緒に絵本を読んで、絆を深めてほしい」と呼び掛けると、子どもたちは早速、うれしそうに絵本のページを開いていました。



贈られた本を持って、河野会長（中央）と一緒に記念撮影

「レジ袋？ 要りません」 エコバッグでごみを削減しよう

内子町役場環境政策室は7月1日、内子フレックシユパークから「マイバッグキャンペーン」を行いました。この日、からは町内で初めてレジ袋を有料化。併せてアンケート調査やマイバッグの販売などをすることで、ごみ削減を啓発すること

が目的です。

活動に協力したECO-ZUKI内子のメンバー・伊達環美さんは「プラスチックごみによる海洋汚染の報道やレジ袋の有料化で、ごみへの関心が高まっている今、みんながエコバッグを広げましょう」と呼び掛けました。

学生が描く現代版の平家物語 四国学院大SARPが内子で公演

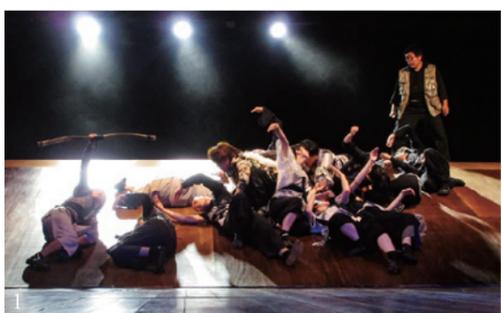
四国学院大学SARPの「平家物語REMASTER」が7月21日、内子座で公演されました。

SARPは、同大学の学生が主体で制作する公演の名称。プロの演出家・振付家とともにレベルの高い作品を創出しています。今回は歌舞伎などの演目にもある『平家物語』を、現代に生きる人々に通じる群像劇にしました。

内子座の客席の半分を

舞台に変え、迫力ある合戦シーンなどを表現。約126人の観客は、エネルギー溢れる学生たちの演技に釘付けになり、最後は鳴りやまない拍手を内子座に響かせていました。

今回の取り組みは、同大学と内子町の協力協定の二環で行われました。今後も滞在型の創作活動などを行いながら、交流を深める予定です。学生たちの活躍にご期待ください。



1_大きな傾斜を巧みに使い、さまざまな場面を表現した 2_磨いてきた演技力で観客を魅了